

岸和田城改修の選択肢

※網掛け部分は最も可能性の高い選択肢

	木造化（※現状不可能）	再建当時(1954)の姿に総建替え ※耐震補強の繰返しを避けつつ、施設の活用方法の幅を広げる	耐震補強+大規模改修（長寿命化） ※建物の歴史的価値を残す	補強せず
工事額の目安（web引用等）	16億円超 ※大洲城（4階）約16億円、名古屋城（5階地下1階）500億円	事例無し ※大規模改修がほとんど。 ※尼崎城（4階）再建は約10億円	約1億円+ α ※耐震補強のみで約1億円。建物の長寿命化のための大規模改修の費用は未定。	無し ※落下物注意の貼り紙のみ
文化財保護法との適合	× ※正確な図面や模型が無いため、文化庁は現状では許可しない	基本的に× ※耐震補強が不可能な場合に限り検討の余地あり(文化庁の許可が必要)	○（適合） ※お城の景観が変わる場合には文化財保護法の現状変更該当 ※エレベーターが城外になる場合には文化庁の許可が必要	該当せず
その他法令との適合	△（建築基準法等） ※耐火構造等が必要。	△（建築基準法等） ※耐火構造等が必要。	△（建築基準法等） ※エレベーターを外付けする場合は「増築」となるため、既存の建築物の部分で現行法令に適合していない部分がある場合は、原則として現行法令に適合するよう改修をする必要がある。	注）落下物が観光客に当たった場合など、政治的な責任と行政上の不作為が問われる恐れ（「市有建築物耐震実施計画」（2020.3）において、岸和田城の耐震性に問題がある点が判明）
文化庁補助金、寄附等	×（不可） ※寄付集めは必須（クラウドファンディング、地元企業等）。	×（不可） ※寄付集めは必須（クラウドファンディング、地元企業等）。	△耐震補強と一部の改修については補助対象（文化庁（最大1/2）） ※寄付集めは必須（クラウドファンディング、地元企業等）。	不要
メリット	・建替えとなるため、施設の活用の幅が広い（観光活用、展示スペースが確保できる） ・現行の耐震基準を満たすため、耐震性能が高い	・建替えとなるため、施設の活用の幅が広い（観光活用、展示スペースが確保できる） ・現行の耐震基準を満たすため、耐震性能が高い ・バリアフリーに対応できる	・建物の歴史的価値が維持できる ・事業費の一部が文化庁の補助対象となり、市の費用負担が抑えられる	費用負担が無い
デメリット	資料調査が必要であり、現状では不可能	・現存する建物の歴史的価値が損なわれる ・文化庁の補助金が活用できない	・観光、展示スペースの縮小 ・補強後の耐用年数が不明確	・強い地震が来た場合に倒壊する恐れがある ・管理者としての責任が発生する